労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

２０１５年１０月３０日発行

Ｎｏ．５１５（第４７期８号）

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX　052-654-1210

http://aichirousan.web.fc2.com/

10/4　県連の現状を共有　第４７期各会代表者会議

10 月 4 日（日）、県連盟事務所で、第 47 期各会代表者会議が開かれました。加盟 21 団体のうち、1 団体を除く 20 山岳会の代表者、県連役員、理事含めて 35 名が出席。第 47 期上半期の活動についての取り組み状況と課題を報告、これから下半期の活動についての方向を話し合いました。

各専門部の主な取り組み状況と問題点・課題は以下の通りです。

組織部／2,000 名の県連づくりをめざし、当面最盛時の 1,500 名への回復を目標として、『プラス１』の拡大を訴えてきた。8 月末現在、県連全体で 1,148 名（総会時より 8 名の増）にとどまっている。さらに会員拡大を進めていくことを確認した。安保法などについての組織部と支点取り組み、提起は特にしてこなかった。ホームページの充実、『登山時報』の購読拡大などを進めていく。**婦人部**／登山の知識や技術の向上、身体づくり」を中心に女性のつどいを開催してきた。さらに各会女性会員相互のネットワーク、意見交流の場を目指す。当面、新スポ連のスポーツセミナーへの参加、11 月の婦人部交流山行の成功に向けて取り組みを進める。**教育部**／今期の登山学校は終了。氷雪技術講習会の実施が当面の課題。ゼネラリストとしての登山者を育てていくために必要な助言や提言、情報の発信を行うことを掲げたが十分に活動できていない。**遭対部**／今年度に入ってすでに 15 件の事故報告があり、前年度 1 年間の事故件数を越えた。

（次ページに続く）

≪目　次≫

理事会	10/4　県連の現状を共有　第 47 期各会代表者会議	1
自然保護部	10 月 8 日　第 4 回自然保護担当者会議を開きました	2
	10/17 全国自然保護担当者会議（滋賀県）参加報告	3
遭対部	お知らせ（11/6 遭対担当者会議、11/15 東海Ｂ．雪崩講習会）	4
婦人部	10/1 女性のつどい（交流登山実行委員会）、婦人部交流登山実施要項	5
組織部	組織数推移、　「登山時報」を読もう！　11/20 担当者会議開きます	6
教育部	氷雪技術講習会スタート	7
	ＳＣＨＥＤＵＬＥ	8

（表紙より）
非常事態宣言。後半期事故ゼロを目指す。残された課題として事故事例集の発行を急ぐ。
自然保護部／春の清掃登山 885 名の参加、ゴミ 270kg 回収。自治体との関係が後退している。藤原岳の外来種（ハルザキヤマガラシ）駆除活動などにも取り組んできた。当面は秋の清掃登山の取り組みが中心の課題だが、組織的にそういった活動の呼びかけ、報告が十分でなく、実行委員会、担当者だけの集まりだけでクローズされており、県連でオーソライズされた取り組みになっていない。今後改善すべき。
組織財政問題検討プロジェクトを核に「人事規程検討委員会」を発足。前回の担当者会議、総会での議論と確認にもとづいて、「各会回り持ち」「再選を規制する」条項を具体的にどのように盛り込んだ規定(案)を作成、提案するかを検討。「案」については来年春の総会をめどに進めたい。　など、各専門部からの取り組みと現状の問題点が報告されました。
　また、理事長からは、それぞれの専門部の取り組みは、当初掲げた課題を消化するだけにとどまっており、その取り組みを県連として集約し、周知していく活動の基本が不十分であること、この県連の現状を各山岳会で共有し、克服することの必要性が強調されました。
午後からは報告についての質疑応答のあと、理事長からの「出席した各会の代表のみなさんには、ぜひ一言ずつでも発言して帰ってほしい」という要請で、出席者が順に発言しましたが、各会の行事や課題への取り組み、ホームページ、県連盟の会議への出席状況などについて発言され、期せずして、普段あまり知ることのない各会の現状や運営、例会、会員拡大について聞くことができた機会になりました。

自然保護部

10/8　第４回自然保護担当者会議を開きました

秋の清掃登山の進捗状況

日時	山岳会名	山域	参加人数	ゴミの量		コース数	情宣方法
				可燃	不燃		
9/27	東三河	滝頭山	33 名	14.9kg	23.7kg	1 コース	
9/27	犬山	入鹿池周辺	22 名	5.9kg	0.5kg	1 コース	
10/4	ふわく	鳩吹山	80 名	0.5kg	0.5kg	9 コース	のぼり、腕章
10/18	スルジェ	弥勒山	36 名	0.5kg	0.5kg	1 コース	
	春日井						
10/18	半田F	武豊町自然公園	50 名予定	—	—	1 コース	HP
10/25	みどり	猿投山	26 名予定	—	—	2 コース	チラシ
11/7	じねんじょ	鳩吹山	未定	—	—		HP
	同志会						
11/15	くらら	海上の森	150 名予定	—	—	8 コース	HP、チラシ ポスター タウン誌
	あつた						
	ASC						
	若駒						

10 月 8 日（木）第 4 回自然保護担当者会議を開きました。

出席者は 8 山岳会 8 名【成田(くらら)、竹内(ふわく)、平松(じねんじょ)、副田(スルジェ)、白水(かわせみ)、宮下(みどり)、蜂須賀(同志会)、奥村(あつた)】議題は①秋の清掃登山の進捗状況の確認、②秋の水質検査の実施予定、③外来植物の駆除について、の三点でした。会議の内容は以下の通り。

秋の水質調査について

10/31（土）にあつたを中心とした2～3山岳会で行う予定。詳細は後日決定。

藤原岳のハルサキヤマガラシの駆除について

11/1（日）にくららを中心とした2～3山岳会で行う予定。詳細は後日決定。また年内に藤原岳自然を守る会や藤原岳自然科学館と来年の活動について話し合いを持つ予定。

今後のスケジュール

11/12(木) 第5回自然保護担当者会議得御開きます。19:30～県連盟事務所にて

10/17　滋賀県で全国自然保護担当者会議が開かれました

10 月 17 日（土）～18 日（日）、滋賀県竜王町の希望が丘文化公園・青年の城で、全国自然保護担当者会議が開かれました。参加者は主管の滋賀県連をはじめとして近畿ブロック各県連盟、その他の地方連盟から 52 名。愛知県連から第一日目のみ参加してきましたので報告します。

開会の宣言のあと、「労山クリーンハイクの歴史」（全国理事長・浦添嘉徳）、「富士山の自然環境保護、保全、再生活動を進める富士山クラブの活動と清掃活動が果たした役割」（ＮＰＯ法人富士山クラブ理事・事務局長・青木直子）、「世界の山岳清掃活動・自然保護活動」（全国自然保護委員長・花村哲也）の三本の講演と、大阪、兵庫などの自然保護の取り組み報告、さらに、各地方連盟の実践報告や、“現状のクリーンハイクの取り組みのこれから”についての若干の意見交換が行われた。浦添理事長は、この 40 年間の清掃登山の歩みを駆け足でたどり、二つ目の講演では、トイレとゴミ問題がネックになって富士山の世界自然遺産の登録が見送られた時期の 1998 年に発足したＮＰＯ法人「富士山クラブ」の富士山の清掃活動から自然環境保護、保全、再生活動をすすめる取り組みまで活発な活動が紹介された。昨今は、年間 30 万人近い登山者が入山する富士山（昨年は 285494 人、今年は 234217 人、箱根の噴火、協力金、マイカー規制でお金がかかるようになったことで、登山者減）に登ってくる、生活環境や習慣の違う外国人登山者や、一回だけ富士山に登りたいという登山者（山の道具もレンタルで間に合う）たちに山でのマナーやルールなどをどう伝えるか、ということで頭を悩ましているとのことだ。それ以外にも巨木の調査、外来種の除去などの取り組みも展開しているとのことで、ひょっとすると、外来種除去の問題では、接点や、取り組みを広げていく端緒になるかもしれない。花村全国連盟自然保護委員長の報告・「世界の山岳清掃活動・自然保護活動」では、日本の清掃登山の取り組みは世界に類を見ない取り組みであったこと、それが、オランダの「respect the　mountain」の取り組みやアメリカの leave no　trace 財団（環境に影響を残さない）の取り組み、アンデスでのクリーンアップトレック、ヒマラヤのエヴェレストクリーンアップなどの取り組みとして世界に広がっていることが紹介された。講演や各地方連盟の取り組みの報告のあと意見を求められた。「山からゴミを一掃しよう、ゼロにしよう、という取り組みから、ゴミが無くなったから終わり、ではなくてその後の取り組みをどう考えていくか、山と自然、環境の変化の中で登山者がどういう付き合い方をしていくか

を考える、そういう時期に来ているのでは」と発言して帰ってきた。翌日の分科会に後ろ髪をひかれつつ、「秋の清掃登山」を翌日に控えていたので、一日目終了後にトンボ返りしてきた。

（洞井孝雄）

遭対部

11 月 6 日（金）第 4 回遭難対策担当者会議を開きます

来る 2015 年 11 月 6 日（金）19：30 から、県連事務所で第 4 回遭難対策担当者会議を開きます。議題は、①事故報告について、②事故事例集の作成・発行について、③転倒・凍傷プロジェクトの提言の具体化について、④その他です。担当者（もしくは相当者）は万障繰り合わせの上ご出席下さい。

一緒に雪の性質、雪崩について学びましょう！！

第14回東海ブロック雪崩講習会を実施します

今期も東海ブロック雪崩講習会を書きの要領で実施します。
机上講習では雪の性質の理解と雪崩の関係を学習します。実技講習では『雪崩に遭わないために』ということを中心に、少人数グループで、雪崩のメカニズムや判断基準を雪質の観察を学習する中で学んでいくとともに、実際に山行に途中における行動判断とリスク軽減の学習も進めていきます。雪山へ入る仲間とともに、是非参加してください。

■ 机上講習　机上講習だけの参加も可。実技講習だけの参加は不可。実技講習に参加する人は机上講習に必ず参加して下さい。

と　き：2015年11月15(日)　9時～17時

ところ：愛知県勤労者山岳連盟事務所（名古屋市中川区十番町2-8栄和産業(株)ビル2階）電話＆FAX：052-654-1210

※駐車場がありませんので車の方は、近くの有料駐車場を各自で利用のこと

内　容：雪、雪崩についての基礎知識、雪崩のメカニズム・雪質、崩事故を防ぐための行動判断、雪崩捜索救助の基礎知識とコンパニオンレスキューなど。

参加費：2,500円（机上講習前に各自で学習をしていただく為に、受講者に資料を送付します。費用が発生しますので、申し込み締め切りを過ぎてからのキャンセルについては。実費を請求します）

申込方法：所属山岳会・氏名・資料送付先郵便番号、住所・電話番号を記入し、下記にメール、郵送またはFAXで申し込んでください。実技講習も合わせて申し込む場合は、緊急連絡先・生年月日・血液型・遭対口数も記入してください。

メール：k-310-satou@msd.biglobe.ne.jp

郵送先：〒457-0861　名古屋市南区明治2丁目11-8　佐藤和男
TEL&FAX:052-691-7783
携帯:090-2578-1525

申し込み締切日　10月31日(日)

■ 実技講習

日　時：2016年1月23日(土)朝8:00～24日(日)15時頃解散予定

場　所：集合場所、宿泊施設、ともに名古屋おんたけ休暇村。実技場所は雪状況により選定

内　容:実際の雪を観察して雪崩の判断と行動判断。雪崩捜索救助の方法と要救助者への処置。

参加費：18000円（宿泊費を含む、ただし現地までの交通費は各自負担）

実技講習申し込み締め切り　12月20日(土)
※宿泊手配および資料作成をする必要があります。キャンセルの場合は、キャンセル料をいただきます。

婦人部

10／1　第６回女性のつどい(交流登山実行委員会)を開きました。

10 月 1 日(木)19 時から交流山行に向けて第二回実行委員会を開きました。出席は 4 山岳会から 8 名【下山・二宮・小川・竹河・小林(みどり)稲垣(峠)辻村(ふわく)西尾(くらら)】。

婦人部交流登山。テーマは「富士山！」

富士山を眺めるとともに紅葉も楽しみたいと考えています。

交流登山は他の会員同士の意見交換をする絶好の機会です。この機会に交流を深めネットワークを作りましょう。夕食後の交流の場をお楽しみに！　まだまだ参加者募集中です。男性の方もどしどしお申込み下さい。お待ちしています。

と　き　：2015 年 11 月 7 日(土)～８日(日)
山　域　：静岡　石割山　三ツ峠　(歩行時間それぞれ５時間程度)
定　員　：40 名
参加費　：15,000 円位(マイクロバス、夕食・朝食込)11 月 1 日以降のキャンセルは 100%)
申込み　：10 月３１日(土)まで。各会の理事又は各会婦人部担当迄申込んで下さい。
(辻村　090-3445-4946 迄)

第３回交流山行実行委員会は 11 月５日(木)　19：00～です

参加者名簿作成・任務分担など、交流山行の運営について検討します。

「山筋ゴーゴー体操」を石田先生から直接学びました！

10/11　新日本スポーツ連盟第８回東海ブロックスポーツセミナーに参加しました

10 月 11 日(日)、三重県のスポーマンハウス鈴鹿で新日本スポーツ連盟東海ブロックが主催したスポーツセミナー、『山筋ゴーゴー体操　PART2』が開かれました。「山筋ゴーゴー体操」を労山の女性委員会と共同で作ってこられた石田良恵先生から直接話を聞く機会です。連休の真ん中の日程にもかかわらず、ふわく山の会、みどり山の会、東海山岳会、東三河山ぽ会、半田ファミリー山の会の五山岳会から九名の参加がありました。

石田先生は、「たとえ山に登り続けていても、年齢が増すに従い前進の筋肉量は落ちることがわかっている、自分の体力年齢を知り、筋力をつけていくこと、筋持久力を高めていくことが大事だ、そのためには、食物のとり方や、毎日の筋力トレーニングがかかせない」とトレーニングの大切さを強調。ともすれば、加齢と老化を一緒にして考えがちですが、「加齢は防げません。でも、ライフスタイルで老化を予防したり、改善することはできます」とも。

後半の実技では、まず、心拍数を計測し、実技をしても大丈夫かどうかの目安を確認して

からストレッチ、さらに山筋ゴーゴー体操をひととおり。簡単な動きですが、普段から体を動かしていないと、なかなかこたえる体操です。ウォーキングやストレッチでは筋力はつかない、少し負荷をかけるくらいにしないと筋力はつかない、というお話でしたが、なるほどとうなずくことばかり。あっという間に２時間が経過して、楽しく山筋ゴーゴー体操を学ぶことができました。直接の指導を受けて自分の癖や、自己流は無駄が多いことも良く分かりました。“ＮＥＶＥＲ　ＴＯＯ　ＬＡＴＥ”　今からでも決して遅くはない！私たちの体は必ず反応してくれる、そんな風に励まされて帰ってきました。
皆さん一緒に山筋ゴーゴー体操をしましょう。

組織部

県連盟組織数推移（2015. 7～9）

加　盟　団　体	2015 年7月末現在			８月末現在			９月末現在		
	在籍会員数			在籍会員数			在籍会員数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
あつた勤労者山岳会	35	32	67	35	33	68	34	32	66
アリス山の会	3	4	7	3	4	7	3	4	7
犬山勤労者山の会マップ	19	29	48	19	29	48	19	29	48
おやこ山の会	3	6	9	3	6	9	3	6	9
春日井峠の会	22	21	43	22	20	42	22	20	42
かわせみ山楽会	6	1	7	6	1	7	6	1	7
じねんじょ山の会	32	28	60	31	27	58	31	27	58
スルジェ山の会	15	17	32	15	17	32	15	17	32
ちんぐるま	5	0	5	5	0	5	5	0	5
東海山岳会	27	8	35	27	8	35	27	8	35
名古屋ありんこ山岳会	20	17	37	20	15	35	20	15	35
名古屋 ASC	22	13	35	22	13	35	22	13	35
名古屋山岳同志会	60	43	103	60	45	105	61	48	109
名古屋山歩会	15	7	22	15	7	22	15	7	22
半田ファミリー山の会	34	46	80	34	48	80	35	46	81
東三河山ぽ会	86	91	177	89	92	181	89	92	181
低い山を楽しむ会	9	6	15	9	6	15	9	6	15
ふわく山の会	110	113	223	113	123	236	118	125	243
みどり山の会	9	23	32	10	23	33	11	23	34
山の会「くらら」	43	31	74	43	32	75	44	33	77
若駒山岳会	11	9	20	11	9	20	11	9	20
合　　計	586	545	1131	592	556	1148	600	561	1161

みんなで「登山時報」を読もう！

「労山愛知」N0514 でもお知らせしたように、労山の機関誌『登山時報』の購読を呼びかけます。

愛知県連の購読状況は、2000 年度には登録会員 1479 名に対して 171 部でしたが、2014 年度(2015 年評議会資料)は、1272 名に対して 77 部でした。その後、2015 年 9 月号では 103 部と部数が伸びて後退に歯止めがかかりましたが、会員数に対する購読率は、まだ 10%以下の状況です。また、有料購読率がゼロないし５％未満の団体は県連全体の 48%になっています。これでは、労山全国連盟の状況や、話題を共有することが難しいな、ということを強く感じています。

この状況を早急に改善したいと考えています。『登山時報』を購読し、みんなで創り上げていくことで、全国の先進的な活動の経験や登山に関する知識、さまざまな情報を幅広く共有することができます。見本誌も準備されています、必要な場合は県連理事もしくは県連事務所まで連絡を。

各会のホームページ担当者集合！

１１月２０日（金）「第５回組織担当者会議」を開きます

第５回担当者会議では「ホームページの充実」を主要議題にすることになっています。
各会のホームページ担当者の方も出席くださるよう要請します。

各会のホームページの取り組み状況についての交流、県連のホームページの現状と今後の取り組みについて話し合う予定です。

また、県連のホームページについての要望などを県連(aichirousan@gmail.com)にお寄せください。

９月の会員数推移は１４人増（５山岳会で増、１山岳会で減）

県連総数としては７月から９月まで連続して会員増になっていますが、多くの山岳会がプラスマイナスゼロかマイナスになっています。すべての会で「プラス１」を意識し、仲間を迎え入れましょう。

教育部

氷雪技術講習会スタート

第一回理論講座「冬山の装備と生活技術」

第 47 期の氷雪技術講習会第一回の理論講座が 10 月 19 日、県連事務所で開かれました。講師は、洞井孝雄（半田ファミリー山の会代表）さん。冬山を構成する気温、積雪、天候などの要素によって導き出される「登山上の困難と危険」、それらに対して「要求される技術・知識」という冬山の定義」からこの講習会のカリキュラム全体をオリエンテーション。続いて、冬山で必要な装備を実物を見ながら、なぜ必要か？　どう使うか？　について学習するとともに、無雪期と異なる生活、その中ではどのようなことに注意すべきか、どのように雪の中で生活するか、ということを事例を交えて説明しました。この日の受講生は 23 名、予定時間をオバーして 10 時近くまで講座が続きましたが、そのあとも受講生からは並べられた冬山の装備を手にとっての質問や相談が続きました。次回以降の講座の予定は、　10 月 26 日（月）「冬山の気象」／　11 月９日（月）「氷雪技術」／　11 月 16 日（月）「冬山の危険と安全対策」となっています。

いずれも午後７時半から県連盟事務所で。理論講座のみの受講が可能です（500 円／回）。

Schedule 2015

2015年10月			11月			12月		
1	木	女性のつどい	1	日		1	火	
2	金		2	月		2	水	
3	土		3	火		3	木	
4	日	各会代表者会議	4	水		4	金	理事会 19
5	月	登山学校コーチ会議	5	木		5	土	氷雪技術実技
6	火		6	金	遭対担当者会議	6	日	氷雪技術実技
7	水		7	土	婦人部交流登山	7	月	
8	木	自然保護担当者会議	8	日	婦人部交流登山	8	火	
9	金	理事会 15	9	月	氷雪技術③	9	水	
10	土		10	火		10	木	
11	日	スポーツセミナー	11	水		11	金	冬合宿遭対連絡会議
12	月		12	木	自然保護担当者会議	12	土	
13	火		13	金	理事会 17	13	日	
14	水		14	土		14	月	
15	木		15	日	東海Ｂ雪崩講習会	15	火	
16	金		16	月	氷雪技術④	16	水	
17	土		17	火		17	木	自然保護担当者会議
18	日		18	水		18	金	理事会 20
19	月	氷雪技術①	19	木		19	土	
20	火		20	金	組織担当者会議	20	日	
21	水		21	土		21	月	
22	木		22	日		22	火	
23	金		23	月		23	水	
24	土		24	火	氷雪技術打合	24	木	
25	日		25	水		25	金	
26	月	氷雪技術②	26	木	教育担当者会議	26	土	
27	火		27	金	理事会 18	27	日	
28	水		28	土		28	月	
29	木	教育担当者会議５	29	日		29	火	
30	金	理事会 16	30	月		30	水	
31	土					31	木	

ご意見、ご用望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

http://aichirousan.web.fc2.com/　　e-mail:aichirousan@gmail.com